

両親の不仲  
虐待の経験から  
親になることに戸惑う夫婦  
出産予定日に我が子を失った夫婦  
子どもを望んだものの  
授からない人生を受け入れた夫婦  
完治しない障害を持つ子を育てる夫婦  
全てが「うまれる」  
ストーリーです



子宮の  
出身の  
人たちの  
贈る  
感動の  
ドキュメン  
ト

開催日時:  
2015年5月30日(土)14:00~16:30

開催場所:  
リリオコンサートホール

参加対象:  
小学4年~6年生のお子様をお持ちのご家庭  
必ず親子でご参加ください。

応募方法:  
下記のアドレスに  
①ご住所 ②電話番号  
③参加される親の名前  
④参加されるお子様の名前  
を明記してメールして下さい。  
Mail:umareru-chiryu-jc@chiryu-jc.org

小学3年生以下のお子様は入場することが  
できませんので、予めご了承ください。  
当選は厳正なる抽選のうえ、書面にて  
発送させていただきます。

募集日:2015年4月27日(月)~5月7日まで

“僕はただ、両親と仲直りがしたくて、  
この映画を作ったのかもしれない”

自分は愛されているのだろうか... 自分は本当にこの両親の子どもなんだろうか... 物心ついた時から、僕はそう思っていました。4歳年下の弟が右目が半分開かない状態で生まれてきたときから、両親は弟のことで精一杯。僕は「親の愛情」というものを、知らずに育った気がしていました。自分はなぜうまれてきたのか、何のために生きているのか... 自分の存在価値がよくわからなくなり、結婚や子どもを持つことに、全く夢を描けませんでした。

そんなある日、講演会で「赤ちゃんは雲の上で親を選んで生まれてくる」という体内記憶の話の話を聞きました。

自分は好きでうまれてきたんじゃないし、子どもは親を選べないとずっと思っていた僕は、非科学的でファンタジーな話とは思いつつ、心から感動したのです。

自分が選んだのかも、と考えると、いまの親子関係は自分にも責任があるのでは、自分も本当は愛されていたのでは... 長らく抱いていた否定的な感情が少しずつ消えていくのを感じました。

「うまれる」ことを映画にしたい！命の原点に向き合うことで、僕自身、両親との関係を築き直せるかもしれない.....

それから3年あまり。何十組ものご家族、ご夫婦取材・撮影させていただきましたが、「うまれる」ことを知れば知るほど、その奥深さと神秘に僕は圧倒されました。

生まれてくること、そして生きることは、まさに奇跡の連続。頭では分かっている命の尊さ、感じる機会ってどのくらいあるのでしょうか？

全身の細胞全部で、映画のメッセージを受け止めていただけたら幸いです

企画・監督・撮影 豪田トモ

うまれる

ナレーション:つるの剛士  
企画・監督・撮影:豪田トモ  
主題歌:「オメデトウfeat.KOHEI JAPAN」つるの剛士  
<http://www.umareru.jp/umareru/>



一般社団法人 知立青年会議所 〒472-0046 知立市弘法町弘法山19  
TEL:0566-81-0900 URL:<http://www.chiryu-jc.org>  
[平日9:00~11:00 土日休み] Mail:umareru-chiryu-jc@chiryu-jc.org  
担当:青少年育成委員会 委員長 渡辺千真 後援:知立市教育委員会

